

### 1 自己評価及び外部評価結果(1階)

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1175300282		
法人名	株式会社 寿エンタープライズ		
事業所名	グループホーム北本		
所在地	北本市北本宿195-1		
自己評価作成日	平成21年11月27日	評価結果市町村受理日	平成22年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-">http://www.kohyo-</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2階
訪問調査日	平成21年12月19日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当ホームでは家庭菜園で草花や野菜を収穫し皆で食したり金魚を飼育するなど、周囲の自然も豊かな環境の中で更に四季折々の自然と向き合い生き物と接することで、本人の安らぎや精神的な穏やかさを保つようになっています。また、そのような環境でも一番大切なことは入居者・家族・職員の他、それらを取り巻く方々も含めた信頼関係の構築と考えている為、言葉を交わし情報を咀嚼すると共にこちらの考えや思いを伝える、という意味の疎通をしっかりと行うことを常に心がけ、グループホーム本来の家族的な環境を作り上げています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

駅から10分程の自然に囲まれた静かな場所で、隣接してデイサービスが併設されており、時には入浴施設を利用する等、日常的に交流をしている。利用者は日当たりの良いリビングや居室で家庭的で穏やかな時間を過ごしている。建物内は利用者と職員と一緒に作成した手作りのカレンダーや季節を感じる作品等が飾られており、利用者と職員の良い関係が伺える。リビングから見渡せる雑木林が四季の移り変わりを演出し、施設の家庭菜園では花や野菜を育てることで、利用者の生きがいにつながっている。開設当初の職員が大勢いることから、職員の環境も良好であることが伺える。さらに職員の年齢も幅広く、その環境が利用者へ暖かい家族団らんの生活感を増幅させている。何よりも職員一人ひとりが状況に応じた利用者ごとの対話の方法を熟知している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の入職時には、理念の説明をし、各ユニット・玄関口・休憩室など職員の集う場所に掲示しています	一人ひとりの尊厳を大切にして日々支援している。開設当初からの職員が多いため、理念の実践が日常的に行われている。利用者への声掛けを重視し、「癒し」と「安心」の空間作りを実現している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩を通して近隣の人達とは、挨拶や声かけを頂く事も増えてきています	散歩の際の交流がきっかけとなって、しゃくなげの花や野菜、果物の提供が随時行なわれている。自治会では情報交換が実施され、運動会や年2回の美化運動等地域の行事に参加している。	現在地域とのつながりが年々深くなっているが、交流を強化し、さらに地域への認知度を高くしていく。それが事業所のみならず、地域ぐるみの安全対策に発展していくことを目指す。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事(清掃活動・体育祭・地域夏まつり)への参加をすることで、グループホームや認知症の方々との接し方など、地域の方も徐々に理解して頂いています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・民生委員をはじめとして入居者、家族等皆さんの意見や情報の交換ができています	2ヶ月毎に行われている。民生委員との関わりは強く、市町村、地域包括センターの職員の参加もあり、質問、意見、要望等充実した意見交換ができています。外部評価で明らかになった点も検討し、実践に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所主催の「介護者の集い」等、認知症の介護について学習会への参加をする事で、市や周辺施設からも相談を受けるようになりました	市役所主催の認知症に係る学習会や地域の4事業所による介護者の集いに参加している。家族の悩みに対し助言したり、見学に来てもらっている。市役所との情報交換を実施し、他事業所との連携も大切にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	接遇マナー向上委員会を通して、気づきにくい拘束を学んだり、事例検討をする等職員間での学習に取り組んでいます	フロアから玄関に通じるドアがゆっくり開くように工夫されている。ベランダに出て景色を眺めたり、庭の花や野菜に水をあげたり自由に入出入りしている。特に言葉による身体拘束について、全職員が細心の注意を払っている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉使いなどに注意を払い、職員一人一人が気付き合うようにしています 接遇マナー向上委員会を通して勉強、学習会を開催しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は必要とする入居者がいない為活用されていない 個々の学習の機会を持ち、要支援時には活用してゆきたいです		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を噛み砕いて説明し、誤解や行き違いが無いようにしている。また、重要な事項は文章で渡すなど双方が配慮し気をつけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書には内部及び外部への相談窓口を記載していると共に、家族会や催事の際になるべく各家族と話をし意見を吸い上げ、可能な事は運営に反映させて頂いています	相談窓口の設置やお便りの配布、また家族会やイベント等家族とも多角的に意見交換の場を設けている。直接聞いたり、書面にて提示してもらった意見、要望は迅速に話し合いをして、ケアプランに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体でのミーティングもあるが、個人の意見(面談)も定期的に行っています	定期的に全体ミーティングや個別ミーティングにおいて職員の意見を聞く仕組みがある。また、職員の気づきや悩みの相談は随時対応しており、サービスの改善につなぐことなら小さな事でも実践につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要な研修については会社負担での受講や各種資格手当を設けると共に、休日日数(年間120日)やシフトの融通性をもって就業環境の整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望する外部研修は許可制とし、伝達講習を義務付け、知識や情報の共有をしています OJTでは職員同志でよりよい方法を考え合う事で質の向上に努めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所主催の交流会に参加し、情報交換やケアについての相談などを気軽に話し合える状況にあり、施設単独ではなく、地域全体でサービスの向上に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を利用し、ご本人にとって安心された生活が送れるよう信頼関係の構築に努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の気持ちを十分に伺うと同時にこちらの想いも伝えることで信頼関係の構築に努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り関係を密にすることで、本人・家族のニーズを見極め、相談・援助をするよう努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的雰囲気大切に、ご本人の希望や気持ちを尊重し、こちらのアドバイス等も聞いて頂ける関係づくりを心掛けています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に利用者様の様子をお伝えしつつ、ご本人との間にも入り、コミュニケーションが円滑に計れるよう心掛けています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方やお友達の訪問は居室で快く過ごして頂ける様、又、行きたい所等あれば同行出来るよう計画しています	一人ひとりの生活習慣を尊重し、馴染みのある近隣場所へは頻繁に行き交いをしている。利用者の好みの物を持って友人が訪問したり、地域住民が事業所に訪れたり、気軽に交流できる環境作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや普段の会話の中でもなるべく皆様が楽しめるよう職員が中に入り支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に便りなど(行事の誘い)をすることで近況の情報収集をし、ご家族の悩み・相談を受け、精神的な和らぎが出来るよう努めています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に直接聞いたり、普段の会話の内容から、希望・意向の把握に努めています	日々のかかわりの中で利用者の会話や表情から意向を把握している。ジェスチャー、筆談により思いや意思を交わすこともある。又、利用者が自分の思いを表現しやすいよう言葉掛けを工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用、又、本人・家族に伺いながら把握するよう努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングや日々のケアの中で一人ひとりの現状の把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、カンファレンスをもとに本人・家族等の意見も伺いながら、現状に見合った介護計画を作成しています	日常的に利用者と家族の思いや要望を伺う態勢が整っている。ケアカンファレンスから利用者のモニタリングを継続的に行い、家族の同意を得ながら介護計画の見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や連絡ノートを活用しながらケアカンファ・業務カンファにて情報の共有を密に取り合い、ケアに生かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族のニーズを尊重しながら、それぞれに合ったケアが出来るよう努力しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や市内の行事の参加、ボランティアの訪問など、一人一人に合った地域参加を行っています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の歯科往診・月2回のかかりつけ医の往診にて医療支援を行う中で、医師と入居者の良好な関係が築けています	月2回のかかりつけ医の往診と週1回の歯科往診を実施している。現在、本人や家族の希望から家族対応の受診は2名いる。さらに、上尾中央病院とは24時間連絡が可能であり、緊急時の対応が整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の変化や質問等、随時かかりつけ医や担当看護師へ相談し、適切な処置を行うよう努めています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族を中心として情報交換を行い、経過の把握に努めています 又、必要に応じて病院関係者とも情報交換や相談を行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や医師と十分に話し合いながら、職員間同士のケアの統一を図り、適切なケアを行っています	本人や家族と時間をかけて、終末期のあり方についての意向を整理し、全職員が同じ見解のもと、支援に取り組んでいる。往診が必要な場合、緊急時も含め主治医とのチームケアが整っているため、迅速且つ適切なケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、それに沿った対応を行ったり、職員同士で対応の統一を図るよう努力しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練をし、職員は避難方法の再確認を行っています 又、近隣の消防署との連携を図っています	災害対策マニュアルを作成し、職員研修も積極的に実施している。最低年2回は利用者とともに避難訓練を行っており、安全対策に努めている。又、消防署との協力体制も確立している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの人の個性やプライバシーを尊重し、人生の先輩として尊う気持ちを大切にしています	利用者のプライバシーを尊重し、職員はさりげなく声を掛けトイレへの誘導を行ったり、個別に対応が必要な場合は静かにゆっくりと向き合っている。利用者ごとに細かな目配り気配りをして、日々対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動を起こす前に、本人に意思の確認をするなど、一方的にならないように配慮しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れの中で、一人一人の体調やペースで変更し、希望に沿える支援を心掛けています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	使いたい化粧品等を購入したり、髪を染めてさしあげたり、希望があれば買物・外出に同行しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、食器拭き、お盆拭きを見守り、コミュニケーションをとりながら行っています	利用者と職員が助け合いながら、食事の準備から後片付けまで一緒に行っている。利用者の得意分野を活かして職員が声をかけている。利用者からも「何かお手伝いしましょうか？」と積極的な姿勢が見受けられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療機関等の連携や尿量、体重等の変化、状況に応じたケアをしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人で清潔を十分保てない場合は、見守りや介助により毎食後のケアを行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はリハパンとパットでトイレ誘導し、歩行出来る方は夜間も誘導し自立を保っていかれる様、又、車椅子の方も日中はトイレに座って頂いています	歩行出来る利用者は自力でトイレに行ってもらっている。オムツではなく、声掛けをしながら自然に排泄につながる様心掛けています。水分摂取や排泄パターンを記録し、安心して排泄できる支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操の他、なるべく歩行して頂く声かけや、便秘の時は可能な範囲でおやつや飲物等で工夫(ヨーグルト・果物・牛乳)しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	生活リズムの観点から、基本入浴時間を定めていますが、本人の希望や状況に応じ可能な範囲で調節しています	清潔保持の観点からも最低週3回はこまめに入浴している。希望により入浴も可能で、安全を考慮し必要に応じた支援をしている。デイサービスに温泉があるため、足浴用に湯を提供してもらう等楽しみの幅を広げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調・希望に沿って休息して頂き(体調の悪循環を起こさない範囲で)夜も安眠出来る様、巡視等で見守っています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容、効果を確認し、必要に応じDrに報告し、薬の変更等は職員全員が把握する様、又、入居者の変化にも十分注意しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が出来る事、好みでして頂ける事を提供し、見守りと共に楽しみ、気分転換を計れる様支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく希望日に添い、おひとりづつの対応や皆様そろっての希望に合う外出を計画・実行しています 又、必要によりご家族にお願いしています	お花見や紅葉狩り等季節感を楽しめて、全員が参加できる行事を年間で計画、実行している。郵便局や買物等個別の要望には、随時職員が同行している。天気の良い日は少人数で、ハイキング、ドライブ、食事等に出掛けしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に必要で、ご自分で管理出来る方にはお任せし、所持希望の方は金額等をご家族と相談し、居室にて保管して頂いています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば電話、手紙のやりとりをして頂いています [お孫さん等にハガキを出す等] こちらからの働きかけも必要と思いますので継続しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理、整頓はもちろん、心地よく過ごして頂ける様、又、利用者様を交えての季節の製作物等で少しでも季節感や温かさを感じられる様心掛けています	共用空間は窓の広さもあって、明るくゆっくり出来るスペースとなっている。静かな環境の中にあるため、目の前の雑木林から聞こえる木々の音や風の匂いを居ながらにして感じとれる。散歩の際に集めた葉などを利用して楽しみながら作品を室内に展示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	短い時間でも皆で会話を出来る時間を設けているが、居間の他にも和室があり、個人や小グループでの時間も大切に作る様心掛けています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し、今までのご自分のお部屋に近い雰囲気や大切に、使い慣れた物、必要な物を置いて頂ける様お話しています	寝具、ベッド、カーテン等安全で使い慣れたものが置かれ、各部屋工夫されている。写真や仏壇が置かれていても広く感じられゆっくり休める。共用の畳の部屋は家族用に泊まれる部屋として、利用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印や案内板を設け、自立を促すと共に、バリアフリー、IHヒーター、見守り等により安全確保をしています		